Clinical and molecular factors for selection of nivolumab or irinotecan as third-line treatment for advanced gastric cancer

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2021-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石井, 貴大 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002685

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2416 号

Clinical and molecular factors for selection of nivolumab or irinotecan as third-line treatment for advanced gastric cancer

進行胃癌の 3 次治療における薬剤 (ニボルマブかイリノテカン)を選択する臨床因子および分子学的因子

石井 貴大（いしい　たかひろ）

博士（医学）

論文内容の要旨
進行胃癌において、1 次治療では 5FU 系薬剤とプラチナ系薬剤が使用され、2 次治療ではタキサン系薬剤に分子標的治療薬であるラムシルマブが使用されている。近年、3 次治療として免疫チェックポイント阻害薬であるニボルマブが承認された。これによって、それまでの 3 次治療における標準治療であったイリノテカンと使い分けが重要になってくる。本研究の目的は、進行胃癌の 3 次治療においてニボルマブとイリノテカンのどちらを使用すべきかを明らかにすることである。方法としては、2 ライン以上の前治療歴があり 3 次治療 (またはそれ以降の治療)としてニボルマブまたはイリノテカンによる治療をうけた進行胃癌患者を対象として、生存期間解析と無増悪生存期間 (PFS)に関連する分子/臨床的因子の同定を行った。結果としては、PFS はニボルマブ群 (74 例) とイリノテカン群(82 例)で 1.9 ヶ月と同等であった。全生存期間はニボルマブ群 7.2 ヶ月、イリノテカン群 6.2 ヶ月であった。しかし、パフォーマンス ステータスが 1 以上の症例、肝転移がある症例、初回の腫瘍量が多い症例、HER2 陽性症例においては、ニボルマブ群で PFS が悪い傾向にあった。そこでこれらの因子を 2 つ以上持つ症例と 2 つ未満の症例においてニボルマブ群とイリノテカン群で生存期間の比較を行った。PFS において、因子が 2 つ以上の時はニボルマブ群がイリノテカン群よりも有意に劣り、因子が 2 つ未満の時はニボルマブ群がイリノテカン群よりも有意に優れている結果であった。ECOG-PS、肝転移、腫瘍量が多い症例、HER2 陽性症例は免疫チェックポイント阻害薬による奏効が悪いことが報告されている。これらの因子を組み合わせることで、進行胃癌患者において最適な治療を提供することが重要になると考えられる。